

厚生労働科学研究費補助金（第3次対がん総合戦略研究事業）  
（分担）研究報告書  
がんの診療科DBとJapanese National Cancer Database (JNCDB)の構築と  
運用に関する研究

研究分担者 戸板孝文 琉球大学大学院医学研究科放射線診断治療学 准教授

**研究要旨：**

治療RISに登録されたデータからのexport機能によりデータ提出を行う日本放射線腫瘍学会（JASTRO）症例登録のfeasibility studyに協力し、34施設から収集された子宮頸癌放射線治療症例（2012年治療）に関する結果を分析した。大規模施設では小規模施設と比較して、1）若年患者が多い、2）早期例が多い、3）腔内照射（標準治療）適用率が高い傾向があることが定量的に示された。

**A．研究目的**

治療RISに登録されたデータからのexport機能によりデータ提出を行う全国症例登録のfeasibility studyを通して、子宮頸癌放射線治療症例の患者背景因子や診療内容の定量的評価の可能性を検討する。

**B．研究方法**

2013年7-9月にJASTRO症例登録のfeasibility studyが行われた。各施設の治療RISに登録されたデータからのexport機能によりデータ提出を行った。34施設から集積された子宮頸癌放射線治療症例について結果を分析した。施設を規模（年間実患者数）により3層（A: < 250人、B: 250-600人、C: 600人<）に区分し比較した。

**C．研究結果**

1. 施設規模が小さい施設で頸癌を含む婦人科患者割合が少なかった（A: 1.8%、B:

6.6%、C: 7.6%）。

2. 施設規模が大きくなるほど若年患者（40-49才）の割合が増加した（A: 0%、B: 19.9%、C: 25.5%）。

3. 施設規模が小さいと早期例（I+II期）は少なかった（A: 25%、B: 48.5%、C: 40.7%）。

4. 施設規模が小さいと腔内照射の適用率は低かった（A: 16.7%、B: 54.1%、C: 60.6%）。

**D．考察**

JASTRO症例登録のfeasibility studyを通して、子宮頸癌放射線治療症例の患者背景因子や診療内容の定量的評価が可能であることが示された。この結果は、これまで行われてきた訪問実態調査研究（PCS）で示されたものと同様の傾向を示していた。以上より、治療RISに登録されたデータをexport機能により抽出して収集する方法で、少ない施設負担で学会の症例登録が可能であることが示唆された。

今後、これまで本研究班で作成した子宮

頸癌の診療科データベースをRISに実装化することにより、より細かく精度の高い全国集計が可能になることが期待される。

## E . 結論

治療RISに登録されたデータからのexport機能によりデータ提出を行う全国症例登録は、子宮頸癌放射線治療症例の患者背景因子や診療内容の定量的評価が可能であることが示唆される。

## F . 研究発表

### 1. 論文発表

1. 戸板孝文、有賀拓郎、粕谷吾朗、垣花泰政、村山貞之. 子宮頸癌の放射線治療—放射線治療計画ガイドライン. 産科と婦人科. 2013; 80: 1336-1341.
2. 戸板孝文、粕谷吾朗、有賀拓郎、平安名常一、垣花泰政、村山貞之. 子宮頸癌の画像誘導小線源治療. 画像情報メディカル 2013; 45: 834-838.
3. Ariga T, Toita T, Kasuya G, Nagai Y, Inamine M, Kudaka W, Kakinohana Y, Aoki Y, Murayama S. External beam boost irradiation for clinically positive pelvic nodes in patients with uterine cervical cancer. J Radiat Res. 2013; 54: 690-696.
4. Kasuya G, Toita T, Furutani K, Kodaira T, Ohno T, Kaneyasu Y, Yoshimura R, Uno T, Yogi A, Ishikura S, Hiraoka M. Distribution patterns of metastatic pelvic lymph nodes assessed by CT/MRI in patients with uterine cervical cancer. Radiat Oncol. 2013 Jun 8;8:139.
5. Randall ME, Fracasso PM, Toita T,

Tedjarati SS, and Michael H. Section III: Disease site. Cervix. Principles and Practice of Gynecologic Oncology. 6<sup>th</sup> Edition. Eds: Barakat RR, Berchuck A, Markman M, and Randall ME. Wolters Kluwer/Lippincot Williams & Wilkins. 2013, 598-660.

### 2. 学会発表

- 1) Toita T, Ohno T, Tsujino K, Uchida N, Hatano K, Nishimura T, Ishikura S. Image-guided brachytherapy for cervical cancer. 2<sup>nd</sup> ESTRO forum, Geneva, 19-23 April, 2013.
- 2) Toita T. Concurrent chemoradiotherapy (CCRT) for locally advanced cervical cancer: what is next? Morning Lecture[ 1 ]“ Treatment of Advanced Cervical Cancer: Update”, The 3<sup>rd</sup> Biennial Meeting of ASGO, Kyoto, 13-15 December, 2013.
- 3) 戸板孝文. 早期子宮頸癌の放射線治療. 教育講演-治療: 婦人科領域. 第72回日本医学放射線学会総会. 平成25年4月11-14日、横浜.
- 4) 戸板孝文. 子宮頸癌放射線治療の新しい標準化に向けて. がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 東海大学公開シンポジウム「子宮頸癌根治治療における今後の展開」. 平成25年9月21日、伊勢原.
- 5) 戸板孝文. 化学放射線療法 of 過去・現在・未来: 子宮頸癌. 教育シンポジウム「化学放射線療法 of 過去・現在・未来」. 第51回日本癌治療学会学術集会. 平成25年10月24-26日、京都

## G . 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし